

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

これからはCSVの時代 野平 郁次郎（一橋大学名誉教授）

1. ハーバード大学のマイケル・ポーター教授は、いまやCSR（企業の社会的責任）を求める時代は終わり、これからはCSV、つまり「クリエイティング・ソーシャル・バリュー」の時代と語っている。儲かったら寄付をするという活動は偽善的で、本業のなかでその価値を追求すべき、というわけですが、これは日本の企業にとってとくに目新しい価値ではないでしょう。
2. 今は、日本企業が再び存在感を強める素地が揃いつつあります。利益は追求するけれど、同時に理想も追求する。重要なのはバランスで、そもそも利益は未来創造のコストでもあります、そこが甘くなると持続しません。松下幸之助は「産業報国」ということで家電を始めました。
3. 少しずつ日本企業は変わりつつある。あとは信じて志を語り、行動する。そのなかで本質を考える。かつての日本人はみなそうでした。明治維新期の脱藩の志士も、死を求めて歩きながら、高度なインテリジェンスをもっていただけです。その気概をもう一度、日本人は取り戻し、再び光り輝く時代に向かって歩むべきときです。

(参考:「VOICE」2011年4月号)

経営者のための経済学

初めて減少した貯蓄残高

1. 総務省の全国消費実態調査によると、2009年の1世帯(2人以上)当たりの貯蓄残高が1521万円となり、前回調査の2004年に比べ2.2%減少したことがわかった。貯蓄残高はバブル期の1989年に5年前比62.8%増加するなど、これまで増え続けてきたが、1969年の調査開始以来、初めてマナスとなった。
2. 日本は国債が多大な額にまで積み上がっているにもかかわらず、ギリシャのように問題にされなかったのは、家計の貯蓄が増加していたからだ。貯蓄残高が減少した今、その神話にも黄色信号が灯りそうだ。

(参考:「週刊東洋経済」:2011年2月12日号)

ワンポイント経営アドバイス

会議は「決める場」である

1. 現場の声を吸い上げようと、頻繁に会議を開いている会社があります。中には、社員の議論もあまり活発でなく、時間を無駄にしている会社もあります。でも、組織を動かすためには、会議は絶対に必要です。会議の最大の目的は明日以降の仕事の成果を最大化することです。
2. そのためには、①会議を「物事を決める場」にすることです。②すべての仕事にデッドライン（締め切り）を設定することです。③日頃から、会社全体で情報を共有することです。会議を「話し合いの場」から「決める場」にする。こうすれば、会社は必ずいい方向に進んで行くはずで。

(参考:「日経トップリーダー」2011年4月号)

古典に学ぶ

人間を大切に経営

「大事を済すには必ず人を以って本となす。今、人、吾に帰するに、吾何ぞ棄て去るに忍びんや」

(訳) わかりやすく訳しますと、「大きな仕事を成り遂げるには、なによりも人間が大切である。今これだけの人々がわしを慕ってついてきてくれたのだ。それをむざむざ見捨てて行けるか」というのです。一言でいえば、人間を大切に経営する思想とでもいうのでしょうか。

(参考:守屋 洋「リーダーのための中国古典」:日経ビジネス人文庫)